

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年 2月 27日

事業所名：児童デイサービスみかん竹谷

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・ 体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	個別に課題を行う場合は「課題室」を利用。運動系課題の場合もフロアを状況に応じて、区切って使用。	はい14 どちらともいえない2 いいえ0 わからない2	のびのびと活動していると評価を頂いた。小学校高学年になり、サイズアウトになった道具等も整理して、今後の成長に合わせて、スペース確保に取り組む。
	2	職員の適切な配置	個別課題はマンツーマンスタイルでの取り組み。職員が追加で必要になる場合は、配置数を増やしている。	はい15 どちらともいえない2 いいえ0 わからない1	今後も継続していく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	視覚支援を念頭に置きつつ、成長度に合わせて、声掛け、見本を見せるなど、支援方法を変えている。	はい16 どちらともいえない0 いいえ0 わからない2	今後も継続して支援方法の改善に努める。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃活動を職員で割り振ったり、こまめな掃除を心がけている。	はい14 どちらともいえない1 いいえ0 わからない3	昨年に引き続き、サイズアウトしてしまった備品などは整理対象として、玩具等も高学年向けのものに移行していく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	店舗会議の頻度を増やし、情報共有。また、会議以外にも、ノートを作成し、気付きなどを自分のタイミングで書き込む事ができるようにしている。	/	気付きを書き込むノートの活用。  研修への積極的参加。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在、実施せず。	/	今後機会があれば検討していく。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	自店での事例検討及び、社内全体での研修に参加。	/	今後も継続。 積極的に参加をし質の向上を目指していく。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	半期に一度の定期的な保護者様との面談、相談。ご希望に応じて電話での面談も行っている。	/	今後も一人ひとりのニーズに沿った計画を立ていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別課題、集団活動を昨年より実施中。ここ最近では、集団活動を数グループに分けた、小集団活動も実施。その日の子どもの状態によって、参加できる枠を選べる。	はい17 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	個別、集団等の多方面から目標に向かってアプローチできるように支援を継続。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	連絡帳に細かく記載。取り組みについての効果も追記することもある。	/	今後も継続しながらニーズに沿った内容をプログラムに組み入れ、支援計画書で記載をしているものの、

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	会議の頻度を増やしており、個々の計画の話を共有。また、普段からの気づきを書き込むノートを使用したりしている。	はい14 どちらともいえない2 いいえ0 わからない2	今後も継続。会議の頻度を増やしたことで気付きも増えたので、適切な支援に繋がるように努力をします。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	活動の主となる職員に立案をしてもらい、職員間で構成を練り上げ、追加等の意見を出し合いながら作成、実施している。		継続して、会議など話し合いの時間を取り、方向性を統一した支援ができるようにします。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇中は、クラブ活動と題して、選択制でプログラムを構成。休日は、数種類の集団活動を行うこともあるが、おでかけ等、外出を実施。	はい16 どちらともいえない1 いいえ0 わからない1	祝日、長期休暇などでしか体験できないプログラムの制定を今後も継続して行う。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	クラブ活動など選択制プログラムを実施したり、子ども主体でやりたいことをやるプログラムも設定している。		職員の個性、特技、得意分野を生かし、活動内容リストを増やしていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	プログラム設定後、各担当に分かれて支援に当たる。また、店舗会議の頻度を増やした。これによって、担当、役割、支援内容などの把握が以前よりスムーズになった。		今後も継続していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	気づきノートへの書き込み。店舗会議にて共有。		気づきノートを今後も継続。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	支援方法についての情報収集。連絡帳や評価シート作成。職員で、それらを共有している。		今後も継続していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回の面談時に経過報告を文書化して保護者様に提供。この報告をベースに次の計画見直し時の参考にしている。		今後も継続。評価と計画書の見直しを適切に行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	会議は未実施だが、電話面談、書類による情報共有などを行っている。		今後も相談支援員を中心とし、相談支援事業所、会社内・他店等とも連携して、情報共有し、支援をしていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし		前回同様、看護部門や各医療関係と連携し、情報共有していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし		前回同様、看護部門や各医療関係と連携し、情報共有していく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	その子どもが利用している他社デイサービスと学校を交えた会議を行った実績があります。 会社内では情報共有をしている。		前回同様、今後も相談支援員と連携して、情報共有し、支援していく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	該当なし		必要になれば、今後も相談支援員と連携して、情報共有し、支援していく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関への受講はありませんでしたが、研修の案内・促進は随時おこなっています。		今後も職員の質、知識向上の為に研修への積極的参加を促していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	おでかけ先での施設など、障害のない子どもと接することもある。行事としては設定せず。	はい6 どちらともいえない4 いいえ1 わからない7	学校でも障害のないお友達と関わっている様子が送迎時に見られるので、色々な施設等、交流が持てそうな場所も出かけ先として、計画していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域の施設等、季節イベントなどに参加することがある。(年に数回。)	はい7 どちらともいえない2 いいえ0 わからない5	今後も継続して交流を図りたいと思っている。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に書類を用いて、口頭でも説明。不明点が見つかれば、保護者との電話やLINEを用いた連絡をしている。	はい15 どちらともいえない2 いいえ0 わからない1	今後も、丁寧に明瞭な説明になるように心がけていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談時に取り組んだ結果を説明し、今後の要望の支援内容を計画している。また、口頭や電話等でも追加説明をニーズや状況に合わせておこなっている。	はい12 どちらともいえない1 いいえ0 わからない4	ご家族様のニーズに合ったわかりやすい計画書を作成するように心がける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングは行っていませんが、個別の相談には親身な対応を心掛けています。	はい7 どちらともいえない5 いいえ1 わからない5	今後も継続していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時に様子や状況を伝え、保護者様からも情報提供していただき、情報共有している。	はい17 どちらともいえない1 いいえ0 わからない0	今後も、共通理解、情報共有をしていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談や送迎時、電話、LINE等での相談に乗っている。	はい7 どちらともいえない2 いいえ0 わからない5	普段の生活で見える事なども保護者様と情報共有し親身な対応を心がけていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会は設置せず。	はい3 どちらともいえない4 いいえ4 わからない7	父母の会発足予定はありませんが、保護者様の親睦の場を持ち、連携支援ができるような行事を計画。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約時に重要事項説明書に記載された内容を確認し、対処方法を説明している。	はい12 どちらともいえない1 いいえ0 わからない5	今後も保護者様の声を真摯に受け止め、適切に対応します。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	連絡帳や送迎時に様子などを伝えている。	はい16 どちらともいえない1 いいえ0 わからない1	今後も、保護者様とのコミュニケーションを図り、適切な情報をお伝えする。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、通信を発行。	はい15 どちらともいえない2 いいえ0 わからない1	今後も通信を継続していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いには注意するように鍵付きの保管庫で管理。共通認識として定期的に個人情報の取扱いを会議の議題として扱っている。	はい15 どちらともいえない1 いいえ0 わからない2	今後も個人情報の取り扱いに細心の注意を払っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	警報発令時のお知らせ、災害緊急時対応、避難所の地図をファイルし、保護者様に配布。感染症については手紙を配布。職員にも周知しています。	はい12 どちらともいえない2 いいえ0 わからない4	今後も書面にて配布。職員は再度、書面の見直しをしておく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	ヘルメット着用、地震を想定した避難訓練、防災センターへのおでかけを行い、非常時対応に備えている。防災グッズを非常時持ち出し袋に入れて常備。定期的に見直し確認を行っている。	はい7 どちらともいえない2 いいえ0 わからない9	今後も継続していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止委員会を設置。また虐待防止につながる研修として、講師による講演、研修などの取り組みをしている。		今後も、虐待防止に努める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	該当者なし		今後、該当する子どもさんが利用の際には、十分な検討を重ね委員会での決定、保護者様のご理解、ご了承の上、対応をしていく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当者なし		今後、該当する子どもさんが利用の際には、十分な検討を重ね保護者様のご理解、ご了承の上、対応をしていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集は職員間での報告と詳細を取りまとめたノートを作成。		ヒヤリハット事例集、ノートへの記載など情報共有し、事故防止に努める。